

# 世界遺産学術講演会

## 「世界遺産をめぐる近年の潮流」



講師

東京大学大学院人文社会系研究科 松田 陽 准教授

まつだ あきら

松田 陽 准教授

紀伊山地の靈場と参詣道が2004年に世界遺産登録されてから20年以上が経過しました。その間にも、世界遺産の保護についての考え方は、日々新しくなっています。

今回の講演会では、これから世界遺産の保護を考えていくにあたり、世界における文化財保護に造詣が深い東京大学の松田陽先生に近年の潮流について教えていただきます。

当日は、2024・2025年度の普及教育事業で世界遺産に関する調査を行った大学生による調査報告もあわせて実施します。

(当日の詳細は裏面をご確認ください。)

日 時 2026年3月20日(金・祝) 13:30~16:00

(開場 13:00)

会 場 ホテルアバローム紀の国 2階 <sup>ほうおう</sup>鳳凰の間  
(和歌山市湊通丁北2-1-2)

定 員 80名 (事前申込制)

参加費 無料

申 込 ※右記の二次元バーコードを読み取り、  
専用フォームから申し込みできます。  
下記URLからもアクセスできます。

(<https://logoform.jp/form/WEVN/1345950>)

※申込期間 1月16日(金)~3月13日(金)

※手話通訳・要約筆記が必要な方は、お申し込み時にその旨を記載いただくとともに、3月4日までにお申込をお願いします。

ぜひきて  
ワン!



# 同時開催！ 大学生による 世界遺産調査報告会

和歌山県教育委員会では、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて20周年を迎えたことを記念して、より多くの人に世界遺産を知っていただくために次世代教育の一環として、2024年度に大学生と共同で、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の調査を行い、展示パネルを作成しました。製作したパネルは2024年度から2025年度にかけて県内各地で巡回展示を行いました。

また、京都橘大学生による調査は2025年度にも継続して行われました。

学術講演会に合わせて、これら調査成果を京都橘大学生が報告します！

## 当日のタイムテーブル

パネル展示もしています！



13:00	開場
13:30	開会
13:35	京都橘大学生による調査報告会
14:00	東京大学大学院人文社会系研究科 松田 陽 准教授による講演会
15:45	質疑応答
16:00	閉会

探求コース

# 光と音を用いた保存区域と周辺地区の関係分析 ① ～紀伊山地がもつ自然を後世へ～

大阪工業大学 工学部 今岡 咲絵 葦田 雄大 武鉢 郁哉 2023年2月号

## はじめに

新型コロナウイルスの影響もあり、世界各団体で観光客が減少していました。しかし、日本では観光客が増加傾向にある中で、世界遺産として観光地として活躍を見ています。

観光業界は活動が見てきることは結構嬉しいのですが、それによって観光客が増加する一方で、問題が生じます。そこで、この問題を解決する手段として、高野山の雲場と参道を対象とした「紀伊山地の雲場と参道」の改善について議論を行った。

## 方法

「紀伊山地の雲場と参道」の高野山エリアで世界遺産に登録されている女人道から参門を開設しました。「音」に関しては、騒音計を用いて音ボリュームとの関連性を分析しました。

「光」に関しては、照度計を用いて夜間における光源のヘッドライトが周囲に与える影響を蓄積し、360°カメラを用いてそれぞれの地図ごとに夜空の真実を抽出し、Canopixを用いて天安電球とヘッドライトによる夜景の走行者とヘッドライトの照度を重ねて分析した。

## 目的

「紀伊山地の雲場と参道」に関する文化遺産はある、且つその関係が深い。また、観光客で問題があるが、特に問題視されるのは観光客の増加（オーバーテリース）による世界遺産への悪影響である。周辺の音響学的混雑、このみの不法投棄は景観を乱す最大の要因である。「紀伊山地の雲場と参道」の、高野山の雲場と参道を対象とした改善案を検討するためには新たな視点が必要であると考えた。そこで、植生を保全・保護していくこととして、ここで高野山エリアの「自動車による音や光が景観に及ぼす影響」に着目して研究を行った。

## 高野山に向かう途中のアーバルカラーリングの壁

## 参考文献

和泉山奈良県立総合公園管理課、和泉山農場、2020. 12  
和泉山奈良県立総合公園管理課、和泉山農場、2020. 12  
鷹嶽の大きさの変遷と和泉山農場、2008. 11  
解説付規制法等実施状況調査、環境省、2024. 2  
光害について、環境省、2018

**探求コース**

町の魅力を知ってもらうために ①  
～那智勝浦町と那智山の観光客の増加について～

---

京都橘大学 文学部 歴史遺産学科 虎走実加郎 今西もも 深江花絵  
2025年2月作成

那智勝浦町  
虎走・深江組

**はじめに**

熊野古道と那智勝浦町は、紀伊山地の南東部に位置している。日本でも重要な寺社群の一つである。山とそれらを結ぶ参道(熊野古道)は古くから信仰の道として多くの人々に親しまれてきた。熊野古道は、山岳信道と結びついで巡礼道で、自然と信仰が密接につながっている。その歴史的文化の価値が高く評価されるに至る。那智勝浦町は2004年にユネスコ世界遺産に登録されている。

**現状・問題点**

熊野三山及び参道において、観光客全般的の人数は世界遺産登録時より減少傾向にある。

熊野三山及び参道をつなぎ那智勝浦町へ観光客を広げていくにはどうしたらよいのか。

**方法**

- 現地調査
- （その他の）なし
- 熊野古道 大智寺参道、那智山 青岸渡寺参道、那智勝浦町農業組合（一社）那智勝浦潮見機器株式会社へのインタビュー

熊野の大自然に圧倒された！

**今後の展望**

那智勝浦町全体の観光客を増加させることには、熊野古道を歩きたいと思わせるために、熊野古道を歩きやすいやさしくするための整備が求められる。また、温泉やまぐろなどを楽しむことでもうらうことが大切だと私は考える。

**参考文献**

世界遺産「紀伊山地の霊廟と参道」三者協議会  
（2013）「紀伊山地の霊廟と参道」（大河内辰也監修）  
那智勝浦町農業組合（一社）那智勝浦潮見機器株式会社  
（ー）那智勝浦潮見機器株式会社、「那智勝浦潮見機器株式会社」。  
（ー）那智勝浦潮見機器株式会社（2024）、「那智勝浦潮見機器株式会社」。  
NPO法人スマートグローバルマーケティング「世界のNPO」。  
「那智勝浦ヒューマン」。



## 大学生作成のパネル（一例）

## 大学生による調査状況

## 作成したパネルの内容 (A1 サイズ× 20 枚)

- ・文化遺産課作成「世界遺産の制度と保全の取組について」
  - ・京都橘大学生作成「町の魅力を知ってもらうために」
  - ・大阪工業大学生作成「光と音を用いた保存区域と周辺地区の関係分析」